

主題：「神の宮である召会（神の永遠のエコノミーの目標）」
の内在的な意義

メッセージ 6

キリスト、ダビデの子とさらに大いなるソロモンが、
神の宮としての召会を建造する道（1）

ご自身をわたしたちの存在の中に建造し込むことによって

聖書：サムエル下 7:12-14 前半、マタイ 1:1、12:23、42、16:18、エペソ 2:21-22、3:16-17 前半

I. 神の新約エコノミーとは、手順を経て究極的に完成された三一の神がわたしたちの中に造り込まれて、わたしたちの命またわたしたちの存在となることです—— I テモテ 1:4、II コリント 13:14、エペソ 3:16-17 前半、ローマ 8:9-10、6、11：

A. 聖書に啓示された最も重要で奥義的な事柄は、神の究極の意図が、ご自身を彼の選びの民の中に造り込むことであるということです——ガラテヤ 4:19、エペソ 4:4-6。

B. 神の永遠の定められた御旨は、ご自身をわたしたちの中に命またすべてとして造り込んで、わたしたちが彼をわたしたちのパーソンとし、彼を生き、彼を表現することです。これは神の心の願いであり、聖書の中心点です—— 1:9、3:11、ピリピ 1:20-21 前半。

C. 神の心の願いにしたがった神のエコノミーと目標は、ご自身を人の中に建造し込み、人を彼の中に建造し込むことです——ヨハネ 14:20、エペソ 2:21-22、3:17 前半：

1. 神の意図は、キリストを完全にわたしたちの存在の中に造り込むことです。

2. 神の願いはご自身をわたしたちの中に造り込み、ご自身をもってわたしたちを再構成して、わたしたちが神の宮となることです—— I コリント 3:16-17、エペソ 2:21-22。

II. 神のエコノミーは一つの事を中心としています。それは神の唯一の働きです——ヨハネ 5:17、4:34、ピリピ 1:6、2:13、I コリント 15:58、16:10 後半：

A. 宇宙における、またすべての時代と世代を通しての神の唯一の働きは、ご自身をキリストにあって彼の選びの民の中に造り込み、ご自身を彼らと一にすることです——ガラテヤ 4:19、エペソ 3:17 前半。

B. 神の定められた御旨は、ご自身をわたしたちの中に造り込んで、ご自身をわたしたちの内なる要素とすることです—— 1:9、11、3:9-11、16-17 前半：

1. この定められた御旨は宇宙の中心であり、この定められた御旨がなければクリスチャン生活は無意味です——啓 4:11。

2. 正当な優先順位はわたしたちが神のために働くことではなく、神がご自身をわたしたちの中に造り込むことです——エペソ 2:10、ピリピ 2:13。

3. 霊的な進展は、神にわたしたちの内側で立場を得ていただくことから成っています——コロサイ 2:19、エペソ 3:17 前半。

C. 聖書の支配するビジョンは、三一の神がご自身を彼の選ばれ贖われたの民の中に造り込んで、彼らの命また命の供給となり、彼らの全存在を神聖な三一で浸透させることです——マタイ 28:19、II コリント 13:14、エペソ 4:4-6、啓 1:4-5、22:1-2 前半：

1. 神聖な啓示の核心とは、神がわたしたちを創造し贖ったのはご自身をわたしたちの中に造り込んで、わたしたちの命、命の供給、すべてとなるためであるということです——創 1:26、2:7、ローマ 8:6、10-11。

2. 新約の啓示は三一の神を見せており、またいかに彼が手順を経てすべてを含む、命を与える霊と成って、ご自身をわたしたちの中に造り込んでわたしたちの命、命の供給、すべてとなるかを見せています——ヨハネ 1:14, 7:39. I コリント 15:45 後半. II コリント 3:17 前半。
 3. 全聖書は、三一の神が彼の贖われた民の中に、彼らの享受、飲み物、命の源泉、光として造り込むという原則にしたがって書かれました。この原則は、聖書のどの部分を解釈するときも、わたしたちを支配し、方向づけなければなりません——詩 36:8-9。
- D. 神のエコノミーにおける意図は、ご自身をキリストにあってわたしたちの存在の中に建造し込むことです——エペソ 3:17 前半：
1. 神はご自身をキリストにあって、わたしたちの中に造り込むことを願っています。キリストであるすべて、またキリストが完成したすべては、この一つの事のためです——ピリピ 2:13. エペソ 3:17 前半. コロサイ 3:10-11。
 2. わたしたちは神に、ご自身をキリストにあってわたしたちの存在の中に建造し込んでいただき、ご自身をキリストにあってわたしたちの中に造り込んで、わたしたちの命、性質、パーソンとなつていただくことを必要とします——エペソ 3:17 前半。
- III. キリスト、ダビデの子、さらに大いなるソロモンが神の宮を建造する道は、ご自身をわたしたちの中に建造し込むことによります——マタイ 1:1. 12:23, 42. エペソ 2:21-22. 3:16-17 前半：
- A. 新約の初めに、キリストはまず、サムエル下第 7 章におけるダビデとの神の契約を成就するダビデの子として紹介されています——マタイ 1:1. 9:27. 12:23. 15:22. 20:30-31. 21:9, 15. 22:42, 45。
 - B. ダビデは神に家を建造することを願いましたが、神はご自身をダビデの中に建造することを願いました——サムエル下 7:2-3, 5, 12-14 前半, 16。
 - C. サムエル下第 7 章 12 節から 14 節前半の内在的な意義は、三一の神がご自身を、彼の手順を経て究極的に完成された三一において、彼の選びの民の中に造り込んでいくということです。ですから、サムエル下第 7 章 12 節から 14 節前半は、三一の神がご自身をわたしたちの中に造り込んで、わたしたちを彼の住まいとすることについてです：
 1. わたしたちは神に、その霊としてのキリストを、わたしたちの存在のあらゆる部分に造り込んでいただき、キリストで構成されることを必要とします——I コリント 15:45 後半. エペソ 3:16-17 前半。
 2. 神が住まいを得るのは、わたしたちの行ないや働きによるのではなく、彼の建造によります——マタイ 16:18：
 - a. キリストが召会を建造するのは、わたしたちの霊の中に入って来て、ご自身をわたしたちの思い、感情、意志に拡大することによります——エペソ 2:21-22. 3:16-17 前半。
 - b. キリストにある神はわたしたちの内側にあり、ご自身をわたしたちの存在の中に建造し、わたしたちを彼の存在の中に建造します。これが、キリストが神の宮を建造する道です——マタイ 16:18. ヨハネ 2:19-21. エペソ 2:21-22. 3:16-17 前半。